6. パターン抽出シート　インストラクション

準備　（ポイントコースは②から始めてください）。このシートは必要枚数分コピーして用います。
シート作成に先立ち、「2. 実例シート」を実例ごとに切り取り、実例カードを作ります。類似しているかどうかを基準に、実例カードをグループに分け、実例グループを作ります。
実例が1つだけのグループができてもかまいません。1つの実例を複数のグループに入れたいときは、コピーして使います。グループが1つしかできない場合は②に進みます。
実例グループ数と同数の「6. パターン抽出シート」が必要です。コピーし、シート中の 2 カ所の（　）に同一の整理番号を記入しておきます。

① 切り取った実例カードを、実例グループごとに、パターン抽出シートに貼付けます（ホチキスで留めたり、書き写したりしてもよい）。

② 実例に含まれている一般的関係性（物事の筋道）を見出し、要点を一文（パターンと呼びます）で表現します。実例グループごとに、グループに通底するパターンを探り、表現します。1例のみの場合は、その例に含まれるパターンを探り、表現します。複数のパターンが見出せる場合は、箇条書きにして並べます。1つの実例に無数のパターンを見出すことができますが、ある程度見出したら、終了します。

③ 実例グループ（1事例グループの場合はその1例）の特徴を、最もよく表現していると感じられるパターンを選びます。1パターンのみの場合は、それを書き写します。整理番号を記入します。

④ シート数が多いときは、意味が類似しているシートを統合します。

パターン抽出シートに集められた実例グループをパターンクラスターと呼びます。クラスターとは「房」という意味です。1つのパターンクラスターは、フェルトセンス（意味感覚）*の1側面を表します。1つのフェルトセンスから、いくつでも側面が切り出せますが、多くなりすぎないように注意します。

統合したシート群ごとに、パターンを付け直します。各シートの③と②のパターンを参考にし、実例グループの特徴をよく表すパターンを付けます。

＊パターンコース」「パターン交差コース」の方へ
テーマとしているデータ理解の意味感覚（意味があるという感覚）を、「フェルトセンス」と呼びます。

©2015-得丸智子